

## 「国東地域半島振興計画(案)」に対する県民意見の募集結果

番号	提出者数	ご意見の概要	県の考え方及び反映状況
1	1	<p>国東半島の六郷満山文化などは「1日では体験しきれない資源」であるため、複数日滞在を前提としたモデルコースの造成や体験・宿泊・食を組み合わせた「国東ならではの滞在価値」を高める取り組みについて、大分県と関係市町村、そして、民間事業者など地域が一体となって取組みをすすめていただきたいと思ひます。</p>	<p>ご指摘のとおり、六郷満山文化をはじめとする国東半島の魅力は一日では味わい尽くせないものであり、滞在型観光の推進は重要な課題と認識しており、P23に「国東半島ならではの価値」という文言を追記しました。</p> <p>県では現在、魅力的な地域資源を活かしたモデルコースの造成支援や、滞在型観光コンテンツの磨き上げに取り組んでいるところです。</p> <p>引き続き、関係市町村や民間事業者と一層連携を深めながら、「国東ならではの滞在価値」を高め、滞在日数の延伸に向けて取り組んでいきます。</p>
	2	<p>現在の国東半島には「国東半島とはどんな場所なのか」という統一した物語・ブランド像が弱いように感じます。</p> <p>なかなか難しいことですが、六郷満山、修験、仏教文化、自然、アートを貫くストーリー設定、「国東半島」という一体的ブランドの確立、国内外向けに使える共通コンセプト・ビジュアルの整備などを、大分県と関係市町村、そして、民間事業者など地域が一体となって取組みをすすめていただきたいと思ひます。</p>	<p>ご指摘のとおり、国東半島の魅力を国内外に分かりやすく発信していくためには、ストーリーやブランドの確立が重要であると認識し、P23に「国内外で利用できる統一したブランド確立の取組を進める」と追記しました。</p> <p>県では現在、国東半島をフィールドとして地域の文化や自然のストーリーを深く伝えることができるアドベンチャーツーリズムガイドの育成に取り組んでいます。</p> <p>また、インバウンド誘客においては、8つの国・地域に設置した戦略パートナーと連携し、各ニーズに応じ、旅行動向を捉えた効果的な誘客対策を行っています。その成果として、例えば豪州の旅行会社が国東半島のトレッキングツアーを造成し、2027年10月催行分まで予約が埋まるなど、着実な成果が生まれています。</p> <p>今後も、関係市町村や民間事業者と連携しながら、国内外で活用できる「国東半島」ブランドの確立に向けた取組みを推進していきます。</p>
	3	<p>半島地域には、平地に恵まれていないなどの厳しい条件から、主要交通機関へのアクセスが容易でない、人口の流出に悩まされているなどの課題があり、このような課題に半島地域が打ち勝つには、地域活性化の核となる産業の振興を図ることが非常に重要であることから、優遇措置が創設されました。</p> <p>しかし、半島振興の優遇措置は、令和5年度から半島税制と過疎税制が重複している地域は、過疎税制が適用されることとなり、国東半島の市町村のような過疎地は、実質的に半島地域の優遇措置の適用外となりました。</p> <p>半島地域の振興支援と過疎地域の自立支援は、それぞれ法の趣旨が違い、特に半島地域が抱える地理的課題は、固有の課題があります。</p> <p>地域の活性化には企業誘致が欠かせません。また、近年では、外国人技能実習生の地域におけるフォローなど、地域が取り組むべき課題も多様化しているのが現状です。</p> <p>そのため、半島地域には、過疎地域の支援措置とは違う要素、税制面だけでなく、支援措置のあり方について国レベルで議論すべきと考えます。</p>	<p>全国22道県で構成される半島地域振興対策協議会などを通じて、半島地域における支援策について、引き続き、国に要望していきます。</p>
2	4	<p>農山村地域における道路整備などのハード対策は重要と考えますが、文化の継承などソフト面の衰退が危惧されます。櫛来土手つき唄やホーヤク祭りなど農業に由来する地域独自の祭りや風習を後世に残す仕組みの検討をお願いします。</p>	<p>ご指摘のとおり、道路整備等にハード対策の推進と並行して、文化の継承というソフト面の衰退を食い止める取組は重要です。</p> <p>P35に「農業に由来する地域独自の祭りや風習」を追記しました。</p> <p>県としては、市町村と連携し、地域文化の記録・保存、担い手育成、次世代への伝承支援など、地域独自の祭りや風習を後世に残すための総合的な施策のあり方について、地域未来創造総合補助金などを活用し、引き続き支援します。</p>
	5	<p>漁村集落は、人家が込み入っており、火災が発生すると一気に周辺に被害が広がります。漁村における具体的な火災対策が必要と考えます。</p>	<p>具体的な火災対策は、各消防本部で実施されますので、県としては、P45に記載する「常備消防の相互応援体制の充実強化」や「消防団の充実強化」について、関係消防本部等と連携して取り組んでいくことにより、火災対策等を推進していきます。</p>

## 「国東地域半島振興計画(案)」に対する県民意見の募集結果

番号	提出者数	ご意見の概要	県の考え方及び反映状況
3	6	能登半島地震のように半島特有の災害が起こる可能性があります。大地震の際に国東半島で生じる可能性がある災害を十分に把握して、大分県と市町村が一緒になって対策をしていただきたい。	県では、現在、最新の知見に基づき、地震被害想定の見直しを行っている所です。結果については、市町村と共有し、連携しながら対策に取り組んでまいります。
4	7	「国東地域半島振興計画」は、地域の抱える複合的な課題に対し、法改正の趣旨を最大限に活かしつつ、非常に多角的かつ具体的なアプローチで解決を図ろうとする意欲的な計画だと感じました。 人口減少・高齢化といった厳しい状況の中、防災対策の強化、産業振興、移住・定住促進、生活環境の改善など、住民の安心・安全と生活の質の向上、そして持続可能な地域社会の実現を目指す強い決意が読み取れます。  各項目における現状と課題、そしてそれに対する振興施策が具体的に記述されており、計画の実行可能性も高いと感じました。この計画が着実に実行され、国東地域のさらなる発展に繋がることを期待します。	県としては、計画の着実な実行と国東地域のさらなる発展に全力で取り組んでいきます。
5	8	国東地域半島振興計画(案)を拝見し、地域の未来を見据えた多様な施策に非常に興味を持ちました。特に、交通インフラや通信環境の整備が地域産業の基盤を支える要素であり、アクセシビリティ向上が観光業や企業誘致に大きな影響を与えていると感じています。空港や港湾整備により、県外・海外とのつながり強化が期待され、新たなビジネスチャンスが生まれるでしょう。また、農林水産業の振興と観光業との連携は地域の魅力を高め、地元企業の成長を促進する可能性があります。さらに、地域住民の生活基盤強化が求められ、高齢化に伴う医療・福祉サービスの充実や、若者層や女性の就業支援が重要です。この計画が実現すれば、地域の発展と住民の誇りを育むことを期待しています。	ご指摘のとおり、交通インフラ・通信環境の整備、農林水産業と観光の連携、医療・福祉サービス充実、若者・女性の就業支援は、地域の持続的発展を実現するための重要施策です。県では、地元市町村と緊密に連携し、本計画を着実に推進し、地域住民が誇りと希望を持ち、活力ある国東地域の実現に全力で取り組んでまいります。
6	9	①P12(2)交通施策の整備 ア空港の整備(振興施策)宇宙港への取組等を契機とした・・・と記載があるが、現時点では宇宙港の取り組みを積極的に行っているとは思えないため、表現を変更したほうが良いと思われる。	国内初となる水平型宇宙港の実現に向け、米国シエラ・スペース社や、兼松、三菱UFJ銀行、日本航空等と連携し、宇宙往還機ドリームチェイサーの大分空港への着陸に向けた検討を進めています。宇宙は、政府が進めている日本成長戦略本部の「戦略17分野」にも位置づけられており、大分空港の宇宙港化も含め、宇宙産業の振興に取り組んでいきます。
	10	②P15(3)地域における公共交通の確保(振興施策)の文中に、交通DXの視点が必要ではないでしょうか。	ご指摘のとおり、地域における公共交通の確保にあたっては、デジタル技術の活用による利便性向上や効率化の視点も重要であると認識しています。 ご意見を踏まえ、P15に「交通事業者の生産性や利用者の利便性の向上により公共交通の持続可能性を高めていくため、地域交通分野のDX化を促進する」と追記しました。
	11	③P23～24(4)観光の振興 他の項目にある(現状と課題)がないため、他項目と体裁を整えたほうが良いのでは。	ご指摘のとおり、現状と課題の記載が漏れていたため、P23～24ページに「旅行形態が団体から個人・グループに移行するなど、観光スタイルが大きく変化する中、地域にある資源を見つめ直し、磨き上げて地域の魅力を高めていくことが求められている。地域間の競争も激しくなっているため、他地域との差別化を図ることが重要である。半島地域特有の複雑な地形により、観光施設までのアクセス道路に線形不良区間や幅員狭小区間があり、観光バスなどの通行に支障をきたしている。国際化の進展に伴い、外国人観光客の誘致や受け入れ環境の整備を図る必要がある。」を追記しました。

## 「国東地域半島振興計画(案)」に対する県民意見の募集結果

番号	提出者数	ご意見の概要	県の考え方及び反映状況
7	12	<p>国東半島は三方を海に囲まれて、陸路が限定されるという地理的な特性があります。そのため、災害発生時には、道路の寸断等により集落の孤立や物資供給の遅れが長期化するおそれがあると思います。</p> <p>被害軽減のための防災対策ももちろんですが、孤立防止の観点や緊急輸送路の確保という観点での防災対策も検討いただけたらありがたいです。</p>	<p>県では、P45に記載する「様々な災害に対応できる防災訓練」では、孤立集落内の避難者の救助を想定し、消防や自衛隊などの救助機関との連携したヘリコプターによる救助訓練等にも取り組んでいます。</p> <p>さらに、P44に記載する災害発生時の緊急輸送経路の確保に向けては、橋梁の耐震化やのり面対策等を進めるとともに、大分県道路啓開計画に基づき、関係機関と連携して資機材等の備えや作業手順の確認など、迅速な道路啓開を実行するための体制整備に取り組んでいます。</p>
8	13	<p>「六郷満山」など国東半島独自の文化や歴史を、もっと多くの人たちに知って足を運んでもらいたい。そのために、座禅体験やロングトレイルなどの体験型観光の充実、多様な移動手段の確保・道路の整備に取り組んでほしい。</p>	<p>ご指摘の座禅体験やロングトレイルなどの体験型観光の充実、多様な移動手段の確保、道路整備については、国東半島の魅力を効果的に発信し、滞在型観光を促進するために不可欠な要素だと認識しています。</p> <p>まず、体験型観光については、P23に記載しているとおり本地域の豊かな自然を活かした体験型の商品づくりを進めます。</p> <p>次に、多様な移動手段の確保については、ご指摘を踏まえP24ページの広域観光ルート設定時に「多様な移動手段の確保も踏まえて」検討します。</p> <p>最後に、道路の整備については、P24に記載しているとおり、観光地へのアクセス道路の整備等、安全で快適に観光ができる道路環境づくりを進めていきます。</p>
9	14	<p>公共交通に関して、ホバークラフトの運行開始により大分中心部から大分空港までのアクセスは良くなりましたが、強風・高波などの気象条件の影響を受けやすく、欠航や遅延が発生すると代替手段(バス等)への切替が必要になります。</p> <p>また、大分空港の利用者数はここ数年大きく増加傾向にあり、大分空港までの公共交通の整備が必要不可欠だと考えます。そこで、杵築駅と大分空港を結ぶ鉄道整備と大分中心部から大分空港までを直線で結ぶ道路整備が可能になると、空港利用者の利便性向上に繋がると思います。</p>	<p>ご意見のとおり、大分空港へのアクセス性の向上は重要であると認識しています。県では、大分空港、杵築駅、そしてハーモニーランドまでを直通で結ぶバス(ハーモニーライナー)の実証運行を行っており、多くの方に利用いただいています。今後も、空港利用者にとって利便性の高い公共交通の維持・確保に努めてまいります。</p>